

平成 30 年度保育士等人材確保事業（案）

1 現 状

本市の就学前児童数は減少するものの、3歳未満児の入所が増加しており、それによる配置保育士の必要数が増えている。また、発達に課題を抱える子どもの増加により、園の多くは担任以外の保育士の加配をしているため、配置基準以上の保育士が必要になっている。

一方、ハローワークや山形県福祉人材センターに求人をだしても、必要保育士を充足するだけの求職者がいない状況にある。

こうした保育士の不足は、これまで実施できていた特別保育（一時預かり）が実施できなくなったり、保育所として人員配置を手厚くしたいができなかったりと、各園の運営にも影響を与えている。

また、平成 29 年 9 月に実施した子ども・子育て支援事業計画の中間年ニーズ調査において「希望通り保育サービスを受けることができない」と答えた保護者があげた事業は一時預かりが一番多くなっている。

● 待機児童対策アンケートより

平成 29 年 6 月に市内 37 園（市内認可保育所、認定こども園、幼稚園、特定地域型保育事業所を対象に実施）

○市全体で保育士等の求人数 49 人（平成 29 年 6 月 1 日現在）

○人材確保に必要とされている事業は、保育士養成校との連携強化

● 保育士等養成校訪問より

平成 29 年 8 月に県内 2 か所、仙台市内 3 か所に訪問

○保育士養成校に進学する高校生が少ない

○保育士養成校に通う学生の約 8 割が地元での就職を希望している

● 山形県福祉人材センター・潜在保育士向け研修より

○潜在保育士向け研修に参加する人が少ない

○「保育の現場から一度離れると、資格等を持っていても再度保育士として働くことができるのか不安」「短時間パートの仕事を希望している」といった声が複数あった

2 目的

本市で保育士や保育教諭として働きたいと思う高校生を増やすとともに、保育士養成校の学生や潜在保育士が、本市の保育園等に就職するきっかけをつくることにより、保育士等の人材確保を図る。

また、本市で働いている保育士等相互のネットワークを形成するために、若手保育士向けの研修会を実施し、保育士等の離職を防止し、定着を図る。

3 内容

○山形県福祉人材センター、保育士養成校との連携

山形県福祉人材センターと連携し、潜在保育士を確保する。また、保育士養成校と情報交換を行うとともに、保育士就職ガイダンスの開催に際し協力を依頼する。

新規事業

○保育士就職ガイダンス

対象／高校生以上(大学生、潜在保育士)

場所／市内コンベンションホール等

内容／保育士を目指す学生や高校生向けの研修及び相談会

○市内保育所や子育て支援の場で保育体験

対象／高校生以上(大学生、潜在保育士)

場所／市内保育園、子育て支援センター

内容／保育や親子への遊びの提供支援を体験するボランティア(半日程度)

○新規採用職員等離職防止研修会(2回程度開催)

対象／市内保育所、認定こども園、幼稚園等に勤務して5年以内の保育士等

場所／公益研修センター等

内容／研修を通じて、保育士、保育教諭、幼稚園教諭の相互のネットワークをつくる

※酒田市保育士等人材確保事業は、国の「保育対策総合支援事業費補助金(保育人材就職支援事業)」(実施主体は市、補助率1/2)を活用して実施する予定です。